

立川教会主催第 14 回「青年の夕べ」

- 日時：2021 年 11 月 21 日（日）
- 感話：「恐れと力の福音」湯田大貴（ゆだ・ひろき会社員）
- 聖書：サムエル記下 22：32－37（p519）
- 讃美歌：1－357 「ちからのみかみよ」・「Spirit Break Out」

--イントロー--

夜、夜、静かな夜。吸い込まれそうになるような静寂。

僕は都内のアパートの自室で、1 人ベッドの中にいた。

最低限の家具だけが並んだ殺風景なワンルームに窓から月明かりが差し込んでいる。

その明かりは、コンクリートの壁に当たり、細く青い光の筋を描いていた。

都内であっても、入り組んだ路地にあるアパートなので、車が通る音などはほとんど聞こえない。またワンフロアに一室しかないので、近隣住民の生活音が聞こえることも少ない。

それでもどうやら今日はいつも以上に静かな気がする。

無音が空間を支配する。どこか時間感覚を失ったよう。ふわふわと時間が流れている。

僕はスイッチを入れて、そんな無音を破ることにする。

聖書朗読が流れ出す。

最近は夜寝る前に聖書の朗読を聞くのが習慣になっていた。

なかなか本を読む習慣が続かないので、音声なら続けられるかとも思い、はじめてみた。

最近は世の中も便利になったもので、スマホのアプリ一つで聖書の朗読を聞くことができる。

今夜聞くのは、サムエル記下 22 章。

今までずっと聴いてきたサムエル記もいよいよクライマックスだ。

朗読に耳を傾けることにする。

--朗読 1' 30--

サムエル記下 22:17-25

いつのまにか自分が祈っていることに気づいた。

強く強く手を合わせ祈っていた。

アーメンと思った。

自分の不安とか悩みとか弱さといったものが浄化されているのを感じた。

聖霊が自分の身を満たしているのを感じた。

神様の臨在を感じたのだ。

--本編--

さて、今日は強さや力といったことをテーマに語っていきたいと思います。

ちなみに、みなさんは強くなりたいと思ったことはありますか？男性の皆さんは、小さい頃強くなりたいなと感じたことがある人も多いのではないのでしょうか？もちろん男性だけでなく女性もその他のジェンダーの人にとってもそうかもしれません。

自分もそんな強さに憧れた少年の1人でした。

小学生の頃から体が小さく運動神経も悪かった僕はいわゆる漫画やアニメのヒーローとはかけ離れた存在でした。

(今日は僕の母も来てくれるので、お母さんは知ってると思いますが)

僕は小さい頃よく頭の中で自作のRPGゲームを作って遊ぶということをよくしていました。

当時はファイナルファンタジー7に強い強い影響を受けており、自分でもゲームを作ってみたくなったのです。

でも、もちろんプログラミングができるわけではないので、頭の中で作ることにしました。

世界観もキャラクターもストーリーも戦闘システムも全部、自分の頭の中にありました。

主人公の名前は、ファルと言います。

彼は脚が早くて何より跳躍力が高い少年でした。

僕は、主人公のファルに自分の理想を投影してました。

強くてカッコいいそんな主人公です。

自分もファルのように強くてカッコよければよかったのですが、現実ではそうではありませんでした。

脚がとても遅くて、100m走に至ってはおそらくクラスの男子で1番遅かったと思います。

日本の小学校七不思議の一つですが、小学生の頃は脚が速い男子がモテるのです。今思うと、本当に意味がわかりませんよね笑

脚がとびきり遅かった自分は、女子からは見向きもされてないと思ってました。自分の顔もあまり好きではなく自分に対しての自信は全くありませんでした。

中学生になると、校内のカーストはより明確になりました。

これは中学校七不思議の一つですが、中学校になるとヤンキーがモテます。もしかしたらこれは田舎の公立限定かもしれませんね。

ヤンキーは強さの象徴でもありました。

自分は彼らとは違い弱い存在なのだと、そこまではっきりと自覚してないにしてもそんな感覚はあったように思います。

その当時、自分を支えてくれたのはヒップホップでした。

ヒップホップの話を礼拝のメッセージでしていいのかは大変悩んだのですが、ヒップホップ抜きで強さについて語るのには自分には無理だと思い、語ることにします。

自分が高校時代、大好きだったラッパーに AKLO というラッパーがいます。

彼の楽曲を聴いてるときは、なんだか無敵になったような気分がするんです。

本当に文字通り無敵というか。誰にも俺に勝てる奴はいない。そんな気分です。

今聞いてもその感覚はあります。

さて、今日は彼の曲の中から、Beast Mode という曲を紹介します。

ちょっと朗読してみます。

-ラップパート始まり-

I Go I Just Go

ついて来れないならまいて行こう

Fake なラッパー無駄な抵抗

しなくていいから Just F*ck Off

I Do I Just Do It

Nike じゃない日も I Just Do It

俺以上やるとか絶対無理ってか

WelcomeToMy Jungle 熱帯雨林

Too Hot 燃えつつけるてか

空白埋め続けるてか

U-Turn するわけねーだろ

I Don't Give A F*ck About

既存のシステム

New Rules, New Tools

映像みたけりや Youtube

先行発売 iTunes

Twitter 出来ない最高

World? World Just Changed!

知らない間に World Just Changed

Rap Game 呼ぶには It's Too Real

Workaholic に無い休憩

No Way No Way No Way

狙うべきはその上の上

まだまだあるはず出来る事

今や No Limit Soldier は俺の事

Digg it?

High Low High Low Up Down

とかあっても We Just Go Go Go Go

Move It, Game Face On

強さが必要麻痺する痛みも傷も

You Can Do It Never Give Up Be Strong

忘れず心にいつも Get Your Beast Mode

What You Waiting For Huh?

I Said What Your Waiting For Huh?

悲劇の主人公なら席埋まってるから

3, 2, 1, Go

ー ラップパート終わりー

どうでしたか？

普段ラップを全く聞かない人からすると意味がわからない歌詞だらけかもしれませんね。

少しだけ解説させてください。

これは、ボースティングと呼ばれる種類の曲で、「自分がいかにすごいラッパーであるか」ということをラップした曲です。

例えば、歌詞5行目

I Do I Just Do It

Nike じゃない日も I Just Do It

これは、Nike の有名なキャッチコピーである” just do it” から取ったものですね。Nike じゃない日も I just do it. つまり、Nike を履いてない日だって、ただ俺はやるだけだぜと言っているわけです。かっこいいですね。

このようにAメロ全体でいかに自分がすごいラッパーであることを誇示しています。続いてサビの部分に注目してください。

High Low High Low Up Down

とかあっても We Just Go Go Go Go

ここで視点が変わっていることに気づくでしょうか。AメロではI just go と言っていたのに、サビではWe just go. つまり、この曲を聴いているリスナーに向けて語っているわけです。

Move It, Game Face On

(動かせ。ゲームに立ち向かうんだ)

強さが必要麻痺する痛みも傷も

You Can Do It Never Give Up Be Strong

(お前ならできる。強くなることを諦めるな)

忘れず心にいつも Get Your Beast Mode

What You Waiting For Huh?

I Said What Your Waiting For Huh?

(何を待ってたよ。聞こえなかったか？なにつたって待ってるんだよって聞いてんだよ)

悲劇の主人公なら席埋まってるから

3, 2, 1, Go

まあこんな感じの曲がラップにはたくさんあるわけです。ラップの解説にお付き合いください、ありがとうございました。

さて、そんな自分を支えてくれたヒップホップも本当の意味で自分を強くしてくれたわけではありませんでした。

自分の心が弱っているときにカンフル剤のように作用することはあっても、世間の価値観の体系を覆すような力はありませんでした。

僕は大学生になり、イエス様と出会い、キリスト者として生きていくことを決めたわけですが、そんな自分がどのように力や強さというものに対する考え方を変えたかを紹介したいと思います。

今回は力の福音について理解を深めるため、一冊の本を読んできました。

3D Gospel、直訳すると3次元の福音という題です。

自分は昔から個人的に「福音の多様性」ということを叫んできたのですが、この本はそんな自分の考え方にとても近い本です。

皆さんは、キリスト教の福音と言ったら何を思い浮かべるでしょうか？

罪ある私たちのために、イエスキリストが十字架で身代わりとなったことで、我々の罪が贖われた。イエスの十字架を信じることのみによって私たちは救われる。

そんな感じでしょうか。

このような福音像を今は自分も信じており、それに救われているという意識もあるのですが、自分が当初神様を信じ始めたときは、このような福音像を信じたわけではありませんでした。

なので自分は「こういった福音像がキリスト教の福音なのだ」という言説を聞くたびに、自分の信仰はどこか間違っているんじゃないかという思いになりました。

自分が信じていた福音は「存在が不確かな自分という存在も、神様が求めて良いものとして造ってくださった。神様は僕のことを愛してくださっており、神の目からこんな私も高価で尊い存在なのだ」というようなそんな福音像です。

自分は福音には多様性があると信じています。一人一人の人間がそれぞれにユニークで多様性があるように、神様が私たち一人一人に用意して下さっている救いの御計画もやはり多様であるはずだという主張です。

さてこの本では、福音は実は3次元なのだと説いています。

罪と贖いというような福音像はその3次元のダイヤモンドのうちの一面にしか過ぎない。その一面を見ているだけでは、神様が私たちに用意してくださった豊かな福音の全体を理解することはできないと言います。

それでは3次元の福音の全体像とはなんでしょうか。

まずは先ほどから出ている「罪と贖い」の福音です。これは主に西洋地域で広く受け入れられている福音像です。

次に「恥と誉れ」の福音です。英語原文で言うと Shame and Honor になります。これがまさに先ほど自分が最初に救われた福音像に近い考え方です。そしてこの恥と誉れの福音は主にアジア地域で広く受け入れられているとあります。

僕も正直、日本人に対してキリスト教を福音していくなら、この福音像が最も我々の身近な課題に対する解決策を提示してくれるぴったりの福音像だと考えています。

しかし、今日はこの「恥と誉れ」の福音について注目するのではなく、第三の福音「恐れと力」の福音に注目したいと思います。この福音は、主にアフリカ地域で受け入れられていま

す。

このような地域の文化的な背景として、三層的な世界観一目に見える世界と目に見えない世界、そして天上の世界という3つの層からなっている世界観があります。

目に見える世界で起こる不吉な出来事は、中間層の目に見えない世界に原因があるというような考え方です。例えば、干魘であったら農作物に宿る霊の影響でそれが起きていると考えます。

目に見える世界の問題を目に見えない世界に働きかけることで、彼らは解決しようとしません。まじないや黒魔術、占いなどです。

近代的な世界に生きている人々は、こういった世界観を非科学的な迷信として考え、霊的な存在が現実世界に与える影響を無視します。しかしながら、恐れと力の文化圏に生きている人々は、常に目に見えない力を恐れながら生きているのです。

それではそんな世界観の中に生きている人はどのような福音を信じてるのでしょうか。恐れと力の福音、その救いの物語の内容を少し紹介します。

恐れと力の福音

- ・創造主である神は、天と地の全ての被造物を支配している。
- ・神はアダムを地上における被造物の支配者に任命した。
- ・サタンは蛇を用いてアダムとエバを誘惑し堕落させた。
- ・アダムは地上での権力と権威を失い、サタンが事実上の支配者になった。
- ・イエス・キリストはサタンの支配から人々を解放するために遣わされた
- ・イエスの十字架の死と復活は、サタンに対する究極の勝利を証する
- ・私たちは、神の恵みにより奴隷の身分から解放され、信仰によってのみサタンから勝利を手にする。

皆さんは普段の生活でサタンの存在を感じたことはありますか？

自分が弱くなっているとき、vulnerable なとき、自分自身を信じてあげられないとき、恐怖に心が支配されているとき、私はサタンに自分自身を明け渡してしまっているように感じます。

思い出すのは、アメリカにいたころ、大学院留学時代のことです。

その日の自分はとても壊れそうな思いだったことを覚えています。

何があってそのような感情になったのかははっきりとは覚えていませんが、とにかく自分がすごく弱くなっていたのを覚えています。

自室に帰った自分は一目散にクローゼットへと向かい、扉を閉じて、体育座りをしました
体を縮こませて、不安を消し去ろうとしますが、なかなか消えません。

心がブルブルと震える感覚。命が輝きを失ったよう。絶望。

どうにか震えを止めて安心を得るために僕はイヤホンを取り出して宗教曲を流す。

Dan Forest の Entreat me not to leave You

「どうか私をあなたから離れさせないでください」

ルツ記の冒頭、強いルツの信仰告白を歌った歌だ。

最初の和音を聞いて少し心が安らぐ。

目を閉じそのまま流れる和音に身を寄せる。

手を組み祈る。

その後も宗教曲やワーシップソングを流して心を落ち着かせる。

1時間ほど祈っていると、自分の心や体が聖霊で満たされたような感覚がして、内側から力が湧いてきて、サタンに明け渡していた自分の心や体の支配をどうにか取り戻したような感覚になります。

聖霊に満たされること。

これは感覚の問題です。何か理性で説明できるものではない。人によっては妄想と切り捨て

られてしまうことかもしれませんが、現実として自分の中に力がみなぎってくることは確かです。そしてその感覚を僕以外の誰もが反駁できないことも確かです。僕以外僕ではないのですから。

そういった確かな感覚により、僕は幾度となく救われてきました。

そのときの救済は、罪からの解放ではなく、恐怖からの解放であったと思います。

恐怖から解放されて、あるべき姿の自分に戻る。それは、神様が良いものとして造ってくださった頃の自分に戻る。神様に愛され期待されて生まれてきたときの自分に戻る感覚です。

ここまでは、3次元の福音を引用しながら、恐怖と力の福音について考え、それに対する個人的な体験をシェアしてきました。ここからは、これらを踏まえて皆さんへのメッセージを語りたいと思います。

ーメッセージパートー

人の心に作用するもっとも大きな感情はなんでしょうか？愛でしょうか？憎しみでしょうか？私は恐怖だと考えています。

ここ数年を思い出しても、福島原発事故、トランプ大統領の当選による米国の分断、そして新型コロナウイルスの世界的流行。社会不安が私たち一人一人に与える影響は甚大です。

またもっと身近なところに恐怖や不安を感じることはあります。みなさんは最近いつ怖いと感じましたか？

僕が最近怖いと感じたのは、お仕事で取引先との会食の準備を任されたときのことです。

場所はどんなところが良いだろうか。取引先の社長は苦手なものはないだろうか。飲み物は経費予算に収まるだろうか。手土産は何をもっていくべきだろうか。基本的なテーブルマナーはできているだろうか。

全てが初体験で予想できないことが多くて、心の中が不安でいっぱいだったことを思い出します。何度も逃げ出したい思いに駆られました。

「怖い」という感情は私たちの思考を停止させます。

恐怖に支配されると、人間は自分の可能性に蓋をするようになります。

自分で考えることをやめて、奴隷のように誰かのいうことだけを聞くようになります。

それこそが、サタンの狙いなのです。

サタンは恐怖や不安といった感情を操り、私たちから命の輝きを奪います。

これは私たちを愛してくださっている神様の思いとは反するものです。

私たちは、自分の中からサタンを追い出し、自分の支配権を取り戻す必要があります。

ただどうすれば、サタンとの霊的な戦いに勝利することができるでしょうか？

それは神様に代わりに戦ってもらうことです。

自分で戦うことをやめて代わりに戦ってもらうことが大事です。

普段私たちは、追い詰められればられるほど自分の力で戦おうとします。

自分の力を信じているからです。

現代の社会は何もかもが自己責任です。

困ったら自分で解決しろと社会が要請してきます。

だからこそ、現代人は自分の力で戦うことしか知りません。

神様によりたのむことを知りません。

自分の力には限界があります。必ずしも勝てる勝負だとは限りません。

なかには負けてばかりの人もいます。

自分の力で戦うことを諦めて、神様に戦ってもらうことにします。

それはどういうことか。神様に代わりに戦ってもらうこと、それは祈ることです。

自分の手から武器を下ろし、代わりに手を合わせて祈る。

「困ったときの神頼み」という言葉があります。

世俗の世界では、揶揄されるように使われることもある言葉ですが、信仰者にとってはまさにこれこそが奥義、神様により頼み代わりに戦ってもらうように祈るのです。

自分の手から武器を下ろすと、心がフワッと軽くなるような感覚になります。

これは私の留学時代に作った詩というか正確にはメモ書きなのですが、紹介させてください。タイトルは「全部こっち側にある」というものです。

「全部こっち側にある」

何かに恐れているとき。それは、その何かと対峙している。対峙しているから怖い。全部こっち側にあるって思えば、怖くなくなる。あっち側にあると思ってしまうけど、もしかしたら、それは自分からこっちとあっちを分けているからかもね。神様に委ねよう。神様が愛によって一致をもたらしてくれるから、こっちもあっちもなくなる。一つになる。もう怖くない。

私たちは自然と恐怖を感じるものを対象化し、それと対峙してしまいます。しかし対峙すれば対峙するほどに、恐怖は増します。武器を手放そう。本当に戦うべき相手は自分の心の中にいます。そして武器ではなく祈りを持って戦うのです。

祈りによって神様に戦ってもらうと、その時点で勝利が確定します。

なぜならイエスは既に勝っているからです。勝利者であるイエス・キリストにより私たちは勝利を得ることができます。

霊的な戦いに勝ち、心の中からサタンを追い出すと、平安が訪れます。

凧のような静まった気持ちです。

聖霊が心を満たしている感覚です。

良いものとして造られた最初の自分に戻る感覚です。

もし、あなたがまだ恐怖や不安といった感情に自分の力だけで戦おうとしているなら、今日から万軍の主である神、勝利者であるキリスト、そして私たち一人ひとりに与えられている聖霊の力によって戦うことを初めてみませんか？

人生は戦いの連続。

これからも私たち一人一人の歩みを神様が祝福して共に戦ってくださいますように。

一言お祈りします。